白木を基調とし、落ち着いた空間を演出したサロン。

内装の別プラン

バウ方向から見る。

ギャレーは酒落たカウンターバーとしても機能する。

操縦感覚は重過ぎず、軽過ぎず良好である。艇の回頭性はおよそ3艇身程度。このクラスのFB艇にしてはかなりシャープな旋回を見せた。高速8の字旋回も試したが、ステアリングの反応は素早く、トレース能力のレベルも高い。ヒールの度合いが小さいため常に安定感を与えてくれる。他艇の曳き波を越える時のショックも柔らかく、バランスを崩すことはほとんどない。クルージングボートとして、さらにスポーツフィッシャー的な要素を兼ね備えたモデルである。

今回のインプレッションは穏やかな海面であったため、やや物足りなさが残った。このボートの実力はラフな状況でこそ引出せるはずだ。

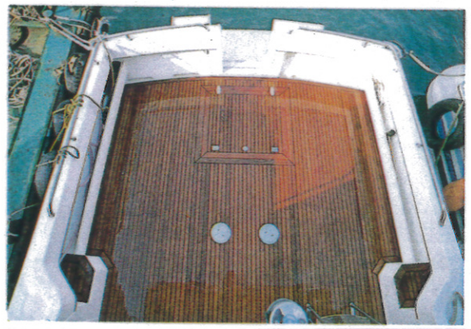
カスタムメイドの内装

ステバークラフト社が送りだすボートの内装はすべてカスタムメイドで仕上げられる。今回取材した艇は

スイムプラットフォームはオプション。

バウの形状。

広々としたアフトデッキはクラストップレベル。



チークデッキもオプションとなる。

アフトデッキ右舷側には便利な手洗い用シンクがある。

スターンのトランサムシャワー。

を高めている等、スポーツフィッシャーとしての高い機能性を合せ持つ。さらにデッキ上の装備はトランサムシャワー、スイムプラットフォームが設けられている。

安定した走航性能

搭載されるエンジンはキャタピラー・3208TA／V型8気筒375馬力の2基掛けである。このエンジンは艇体中央にマウントされている。そのため走航中、サロン内はどうしても音が気になる。会話を楽しみたいのならFBでということになる。もっともここがメインの操船場所となるのだが。

走りだしはなかなかスムースでプレーニングまでの時間は約18～20秒。艇体が高いがさほどローリングするということもなく、安定性の高さを印象付けてくれた。これはバウからスターンまで貫かれたキールによるものだ。さらにディビニセルをFRPではさみ込むサンドイッチ工法によって、艇体のたわみを最小限に抑えたこともその要因のひとつだ。またストリンガー等の補強材にはオーストラリア産の耐久性、強度に優れたウッドを用いて極めて堅牢なハルに仕上げている。

インプレッション当日の最高速度は28ノット／2800回転であった。このデータは同クラスの同じエンジンを積んだモデルよりも、若干上回るものだ。巡航は24ノット／2300回転で、最も快適に走れる回転域は1900回転あたりから2400回転の幅だろう。

ステアリングは油圧システムで、